



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/25 (月)	+ 500	▲ 14,400	▲ 13,900	国庫短期証券 発行・償還 (3M・6M)	CP等買入 ▲ 400 社債等買入 ▲ 100	ETF買入 + 200	欧: ECB総裁講演
1/26 (火)	+ 1,000	+ 1,000	+ 2,000				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月17日・18日) 米: FOMC (1日目)
1/27 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国債発行 (40年)	新型コロナ企業 金融支援 ▲ 68,800		日: 景気一致指数 (11月) 米: FOMC (2日目)
1/28 (木)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000		共通担保 (全) ▲ 4,100		米: 新規失業保険申請件数(23日終了週) GDP (4Q) 欧: ユーロ圏景況感指数 (1月) ユーロ圏消費者信頼感指数 (1月)
1/29 (金)	+ 400	▲ 1,100	▲ 700				日: 完全失業率・有効求人倍率・ 鉱工業生産 (12月) 米: ダラス連銀総裁、講演 ミシガン大学消費者マインド指数

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初486兆円から始まった。その後は週を通して、横ばい圏で推移し、487兆3,900億円で越週した。無担保コールON物は、新積み期の序盤から、地銀業態を中心としたビッドサイドの調達意欲が強く、堅調な地合いが継続した。なお、同金利は週初△0.024%から上昇の一途を辿り、週末22日には△0.016%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.020%~△0.010%の水準で出合いが見られた。日本銀行は20・21日に開催した金融政策決定会合で金融政策を現状維持とし、「貸出増加を支援するための資金供給」および「成長基盤強化を支援するための資金供給」について、貸付実行期限の1年間延長を決定した。来週的主要な予定は、国内では26日に日銀金融政策決定会合議事要旨(12月17・18日分)、29日に有効求人倍率・完全失業率の公表があり、海外では26~27日に米FOMC、28日に米GDP(4Q)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.05 ~ 0.00
TDB 3M	△0.120 ~ △0.070
CP 3M	△0.05 ~ 0.00

<レポ>

短許GC取引は週初△0.08%近辺から始まり、週を通して△0.085%~△0.075%の狭いレンジで取引された。短国3M・6Mの発行日となる22日の取引では、△0.07%まで上昇した。SC取引は2年408~420回債、5年137~145回債、10年331~361回債、20年169~175回債、30年63~69回債、40年12~13回債などに引合いが多く見られた。

<TDB>

19日の1Y966回債(1/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1108%(前回債△0.1081%)、平均落札利回り△0.1128%(同△0.1101%)となり、入札後△0.119%~△0.117%の出合が見られた。20日の6M967回債(7/26償還)の入札は、最高落札利回り△0.0962%(同△0.0866%)、平均落札利回り△0.0982%(同△0.0886%)となり、入札後△0.103%~△0.102%の出合が見られた。22日の3M968回債(4/26償還)の入札は、最高落札利回り△0.0882%(同△0.0902%)、平均落札利回り△0.0922%(同△0.0926%)となり、入札後△0.087%近辺の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.097%~△0.092%のレンジ、6M物が△0.105%~△0.102%のレンジ、1Y物が△0.122%~△0.119%のレンジで取引された。

<C P>

今週の入札発行総額は約5,000億円で、週間償還額(約4,100億円)を上回った。5・10日スタートでの発行増加と小売・不動産・食品業態の大型発行が見られた。発行残高は先週末の25兆1,472億円から、21日時点で25兆3,514億円に増加した。発行レートは、△0.05%~0%近辺での出合いであった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還(約1兆600億円)を含み、約1兆3,300億円程度となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行が見込まれるため、活況を予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では強いマイナスレートでの出合いを予想する。26日に、CP等買入オペが6,000億円度でオフアされる予定となっている。